



作文1部

もんぶかぐだいじんしょう
文部科学大臣賞

はじめて見たおこめの花はな

みやぎけん みぎさきちやうりつ なんごう
宮城県美里町立南郷小学校二年

たかはし さよ
高橋 紗世

わたしがいちばんすきなたべものは、白いごはんです。とくにしおおむすびにすると、とてもおいしくて、たべると元気が出ます。まい日、あたりまえにたべているおこめがどんなふうになられているのか、今まで一ども考えたことがなかったので、この夏休みにしらべてみようと思いました。

わたしのおじいちゃんは、たじりでおこめを作っています。「おじいちゃんの夏の田んぼで、おこめがそだっているようすを見てみたい。」とわたしは思い切っておじいちゃんに話してみました。するとすぐに「んで、今から行ってみっか。」と言うと、白いけいトラックのエンジンをかけました。はじめてのるけいトラックは、田んぼみちに入るとガタガタゆれて少しこわかったけど、車からおりるとおどろきまし

た。あたり一めんみどり色の田んぼがどこまでも広がっていて、風がふくといねがうれしそうにゆれていました。「さよちゃん、これがおこめの花だよ。」とおじいちゃんが手にとってわたしに見せてくれました。そこにはおこめのつぶよりも小さな白い花がたくさんさいっていました。「おこめの花はほんの少しの時間しかさかないんだよ。」とおじいちゃんは教えてくれました。家にかえってから、とってきたいなほのもみを数えたら、九十五つぶありました。わたしは、中におこめの赤ちゃんが入っていると思ったのに、まだ中は空っぽでした。

わたしが生まれたときからいつもたべているおこめは、「ひとめぼれ」というひんしゅだと知りました。おこめ作りにはたくさんのさぎょうや手じゅんがあり、お天気にも左右されることも知りました。おじいちゃんがてまひまかけて作っているから、おこめがおいしいんだなと思いました。これからもかんしやをして、おちやわんに一つぶものこさないで大切にたべようと心にきめました。